

に着手できるよう最善の努力をする。

再質問

福祉タクシー、乗り合い交通、コミュニティバスそれぞれの利点を生かし、きちんと協議会で検討した上で結論を出せば良いと思う。昨日半額125円をやめるといった根拠も市長に聞きたい。

再答弁(市長)

市長の政治姿勢について問う

質問

①高崎坂東線、水海道プラザについて
高崎坂東線について市長は、請願は県に対する請願だから、県に対してお願いするだけだと答弁した。市長は命の大切さをどう思っているのか。もしあの道路で交通事故で亡くなつて、私が親だったり身内だったら、反対した人に何をしてみようか分からない。市民の命をどう思うのか、まずそれを聞きたい。

市長は議員の時にプラザを買い取れと何度か言っているが、プラザは私企業で、公の企業ではない。なぜ、税金でプラザの援助をしなければならぬのか。

②所信表明について
土曜、日曜に市役所を開庁

三つの役割の特性を生かし、すみ分けをしていきたい。

料金については、適正な負担をしたほうが良いという考えを持っている。

(その他の質問)

○教育問題について



茂田 信三議員

するということは大変すばらしい、大賛成である。しかし、今までの人件費でやるということを条件に、実施してもらいたい。

乗り合いタクシーの件については、循環バスよりも乗り合い交通の方が効率が良いから廃止したのではないかと。まずは、改革していったら良いのではないかと。

副市長の件については、財政難で人件費を節約するのであれば、副市長はいらぬ。副市長が会議に出ても議決権は無く、会議の内容を市長に伝えるだけなら不要だろう。

③高止まりの公共事業落札について、今後どのような対策を考えているか。
現在入札の件で問題になっているのは、落札率の高止まり

りである。98%や99%など普通はあり得ない。談合のペナルティをきつくしなければならぬ。もう一点、なぜ水海道の工事は水海道の業者、石下の工事は石下の業者が行うのか。それでは入札になつていないだろう。合併時の覚書があるのか。

答弁(総務部長)

③より多くの業者が参加でき、より競争力の高まる条件設定を行うなど、入札制度の改善に早急に取り組んでいきたい。

答弁(市長)

①高崎坂東線について、議会全員の意思を尊重したいという立場で動いている。水海道プラザについては、買い取りは全く考えていない。

②休日開庁は、ローテーション方式、休日の振替を利用すれば対応できると思う。循環バスとデマンド交通は、効率化、料金の適正化を図りながら、共存できるように検討を進めている。

③入札には地元業者育成の面もあるが、適正で安いところに落札させる方向性も考えている。

再質問

石下の業者が石下の工事をやる。入札が形骸化している。暗黙の了解とは談合である。高崎坂東線は、県でも市でも

とにかく早くつくってほしいということである。

再答弁(市長)

昨年12月の請願は、とにかく早くやってほしいという願いだと思う。私も全面的に賛成である。

メガソーラー発電の導入について

岡野 一男議員



質問

東京電力福島第一原発の事故以来、国のエネルギー政策が混とんとしている。原発の安全神話が言われ続けた結果このようなことになり、原発の依存度を今後下げていかなければならないと思う。

①再生可能エネルギーの普及拡大のため、当市でも独自に導入する考えはあるか。

7月1日、再生可能エネルギー特別措置法が施行され、電力会社は太陽光、風力などの発電による電力の全量を一定期間同じ価格で買い取ることを義務付けられた。現在、大手企業が大規模太陽光発電(メガソーラー)の計画を打ち出し、稼働しているところもある。メガソーラーについて、民間ではなく、自治体単独でも行えるのではないかと、いうことで提案するものである。

群馬県太田市では、7月1

日から太田太陽光発電所が発電を開始した。年間推定発電量163万キロワットアワーで、一般家庭一軒当たりの月平均電力使用量を304・7キロワットアワーとして算定すると、約446世帯分の年間電気使用量となり、坂手地区の約9割に相当する。この発電による二酸化炭素の削減は年間611トンで、50年生の杉約4万3、643本に相当する。私たちもできることから取り組み、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を削減しながら、同時に経済の成長も実現していきたいと思っている。

②土地の有効活用という観点にも適しているのではないかと。

メガソーラーの設置は、土地の有効利用にも合致するものであり、当市にもまだまだ活用できる土地はある。耕作放棄地などを想定し、2万8、